

サイクリング振興による地域づくり

愛媛県 企画振興部 総合政策課 自転車新文化推進室

室長 坂本 大蔵



自転車新文化の推進

これまで自転車は、買い物、通学、通勤といった移動手段として使われてきましたが、愛媛県では自転車は健康と生きがいと友情をもたらすという自転車新文化の推進を目的として、数々の自転車施策を進めています。

こうしたサイクリングを核とした取り組みを進めることで、交流人口の拡大を図り、地域の活性化に繋げていこうとしており、将来的には観光振興や産業の創出にまで拡がることを期待しています。

地域づくりにおける振興と安全

サイクリングは特別な会場やスタジアムを必要とせず、私たちが日常で通行する道路を使って楽しむことができます。このため、住民の日常生活や車の通行と密接に関係することとなり、サイクリングの振興と併せて、住民に危険な思いをさせることなく、車の通行の邪魔になることのないよう、安全対策にも力を入



サイクリングしまなみ2016

生へのヘルメット着用や思いやり1・5m運動など、積極的な施策を展開しています。

自転車新文化の方向性

県では最初に「しまなみ海道をサイクリストの聖地に」という目標を掲げ、乗り捨て可能なレンタサイクルに加えて、ブルーラインの敷設やサイクルオアシス、サイクルレスキューの整備、えひめFree Wi-Fiの設置などの受け

て同時進行で進めてきました。平成25年7月には、都道府県としては全国で3番目に自転車安全利用条例を定めて、シェア・ザ・ロードの普及啓発を進め、高校

入れ環境整備を行ってきました。さらに日本で初めて供用中の高速道路を一部通行規制して、平成25年にプレ大会、平成26年、28年に『瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会』を開催し、しまなみ海道の知名度は飛躍的に向上しました。

また、海外においてもアメリカCNNテレビのwebサイトで世界7大サイクリングコースの一つとして紹介され、オーストラリアのロンリープラネット社による世界の魅力的な50のサイクリングコースに日本

で唯一紹介されるなどにより、国内外から年間32万人（推計）のサイクリストが訪れるようになりました。これにより約70kmのサイクリングコース



サイクリストの聖地碑(多々羅しまなみ公園)

沿線には新しいカフェやレストランなどのほか、各島々にも魅力的な店舗や施設が次々とできて、サイクリングとともに地域が活性化している好例となっています。

サイクリングパラダイスえひめ

次の目標として県全体をサイクリングパラダイスにするために、「愛媛マルゴト自転車道」として26のサイクリングコースを設定し、受け入れ環境の整備を進めています。特にサイクルオアシスは県内への展開に向けて毎年施設を増やし、さらにサイクルトレインやサイクルバスといった、より多くの方にサイクリングを楽しんでいただくための二次交通の整備にも力を入れています。



サイクルオアシス(横河原ぶらっとHOME)

自転車地域が盛り上がりつつある事例をいくつか紹介しますと、上島町は、しまなみ海道のリピーターの方を中心に、三つの島を巡るサイクリングや離島ならではの魅力が注目されています。平成23年に始まった石鎚山ヒルクライムは、大会前には多くのサイクリストが試走やトレーニングに訪れるようになってきまし

た。松野町では平成28年から林道などの未舗装の道路を活用したマウンテンバイクのオフロードイベントを開催し、自然の山々を駆け巡るサイクリングとキャニオニングとの組み合わせや四万十川へのサイクリングとの連携により、新たな展開が期待されるそうです。

サイクリングアイランド四国へ

昨年からは、四国にサイクリストを呼び込もうと愛媛発着の四国一周約1000kmルートを発表し、サイクリングアイランド四国の構想をスタートしました。四



サイクリングアイランド四国

国4県の特徴ある景色や文化、食を体感していただくとともに、1200年の歴史があるお遍路のおせつたい文化やおもてなしのココロに触れてもらうなどにより、魅力的なコンテンツに大きく発展する可能性があると考えています。そして、サイクリング先進地である台湾では「環島(ホアンダオ)」として一周約900kmのサイクリングが人気となっており、既に台湾か

らのサイクリングツアー客が四国一周にチャレンジするなど、これからはインバウンドも視野に入れて四国一周と台湾一周でサイクリング交流を促進していくこととしています。

サイクリングの発展性

サイクリングは程良いスピード感・距離感で、走っているルート全部を楽しむことができます。ちよっと止まればすぐに地域に溶け込むことができるのも大きな利点です。それがSNSの普及により個人による口コミが拡散していくことで情報発信がなされ、行ってみたいという情報が、誘客に結び付くという流れが見受けられます。地域の魅力は何か。受け入れ環境をどのように整えていったらいいか。そうしたニーズを探るなら、自らサイクリングの楽しさに触れることが大事です。

自転車は一人でも、家を一歩出たらずぐに楽しむことができます。まずは自分の地域からサイクリングしてみよう。



地域の魅力再発見(長浜大橋)